

未来デザインワークシヨツプ 成果報告 【中央公民館エリア】

令和2年12月19日 公共施設管理課

中央公民館エリアの現状 (データ編)

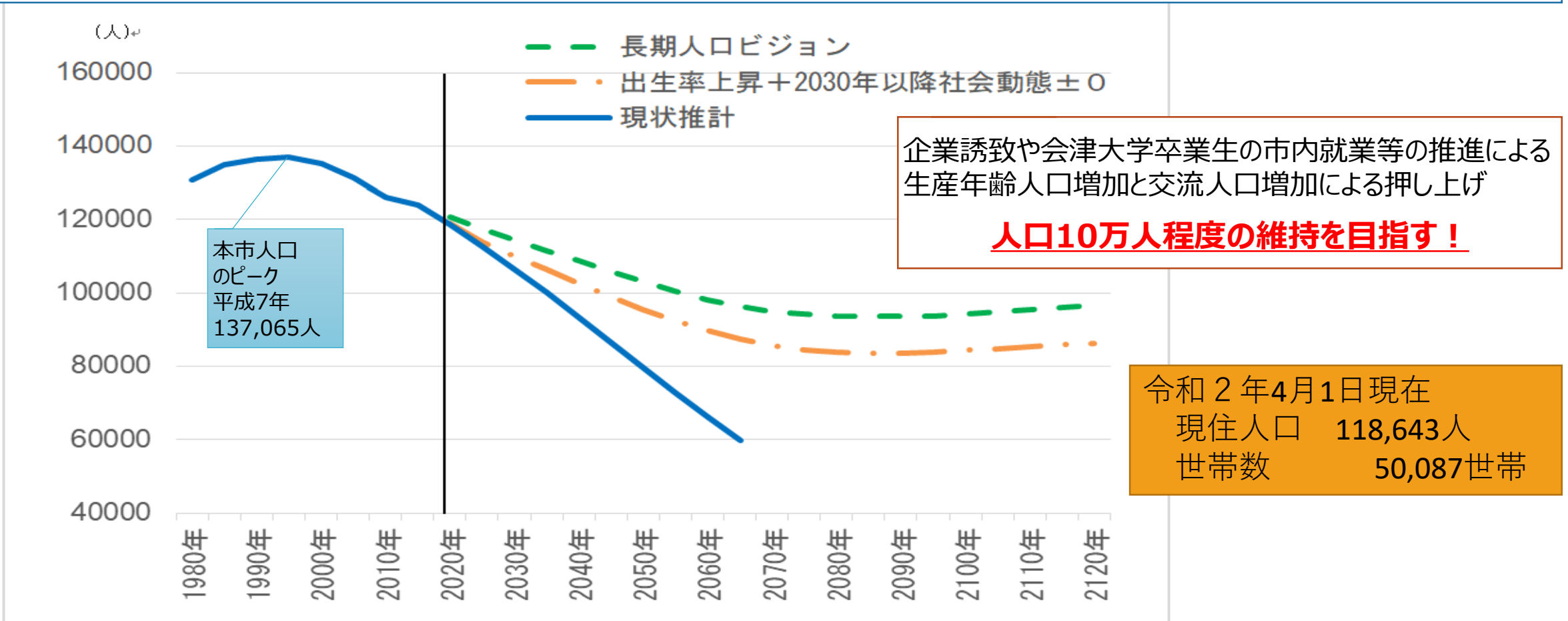
詳細は、別冊資料①

『中央公民館エリアデータブック』をご覧ください

1 会津若松市の人口（将来推計と目標）

■ 今後の人口推計

今のペースで人口が減っていき、2040年には人口10万人を切り、2060年には約6万6千人まで人口が減ることが予測されています。そのときの高齢化率（65歳以上の人口割合）は46%に達し、令和2年4月の高齢化率（約31%）を大きく上回ることが想定されます。

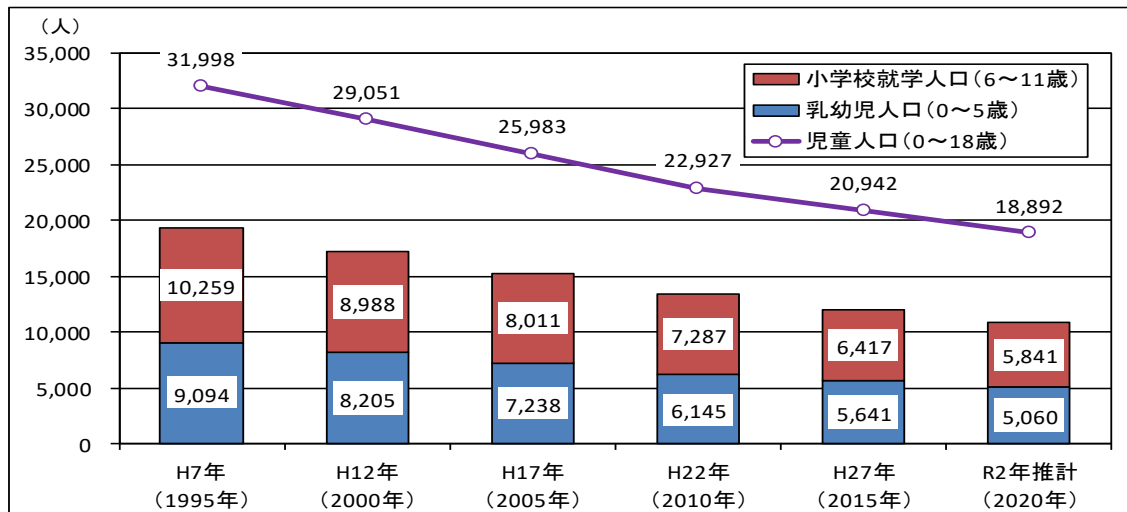


※出展：「第2期会津若松市 まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」

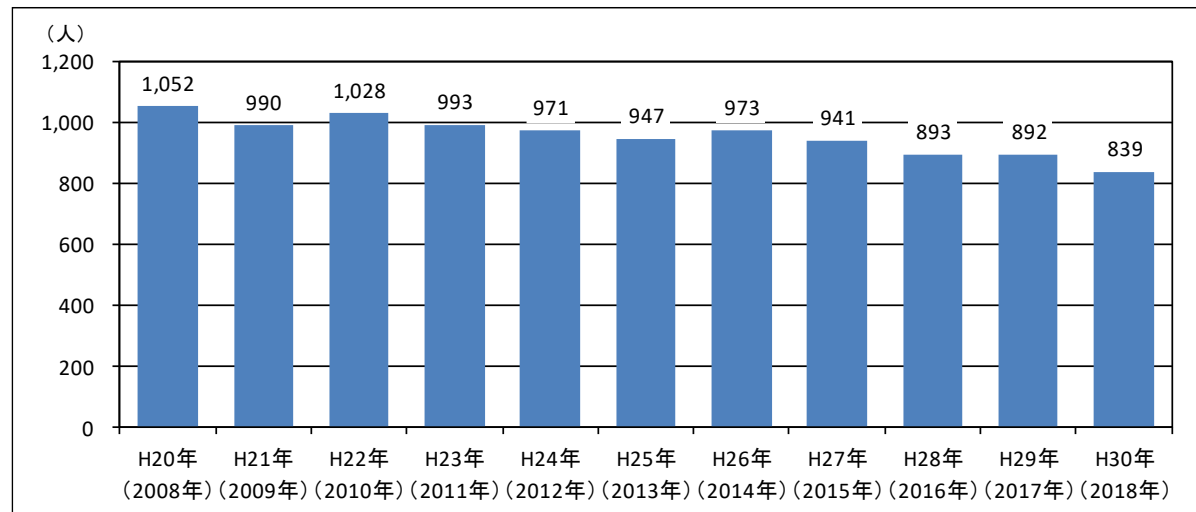
2 会津若松市の人口（子どもの状況）

出生数は減少傾向であり、子どもの人口（0～18歳）も徐々に減少しています。

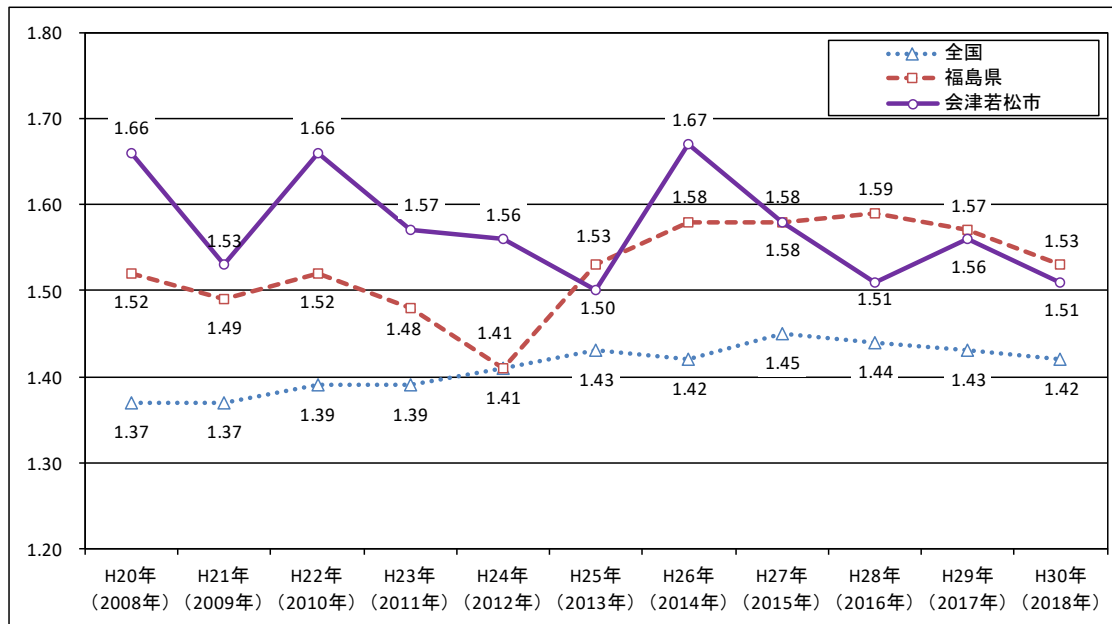
このまま減少が続くと、地域の活力が失われ、子育てを支援する地域コミュニティの維持も厳しい状況となることが懸念されます。



子どもの人口（0～18歳）の推移

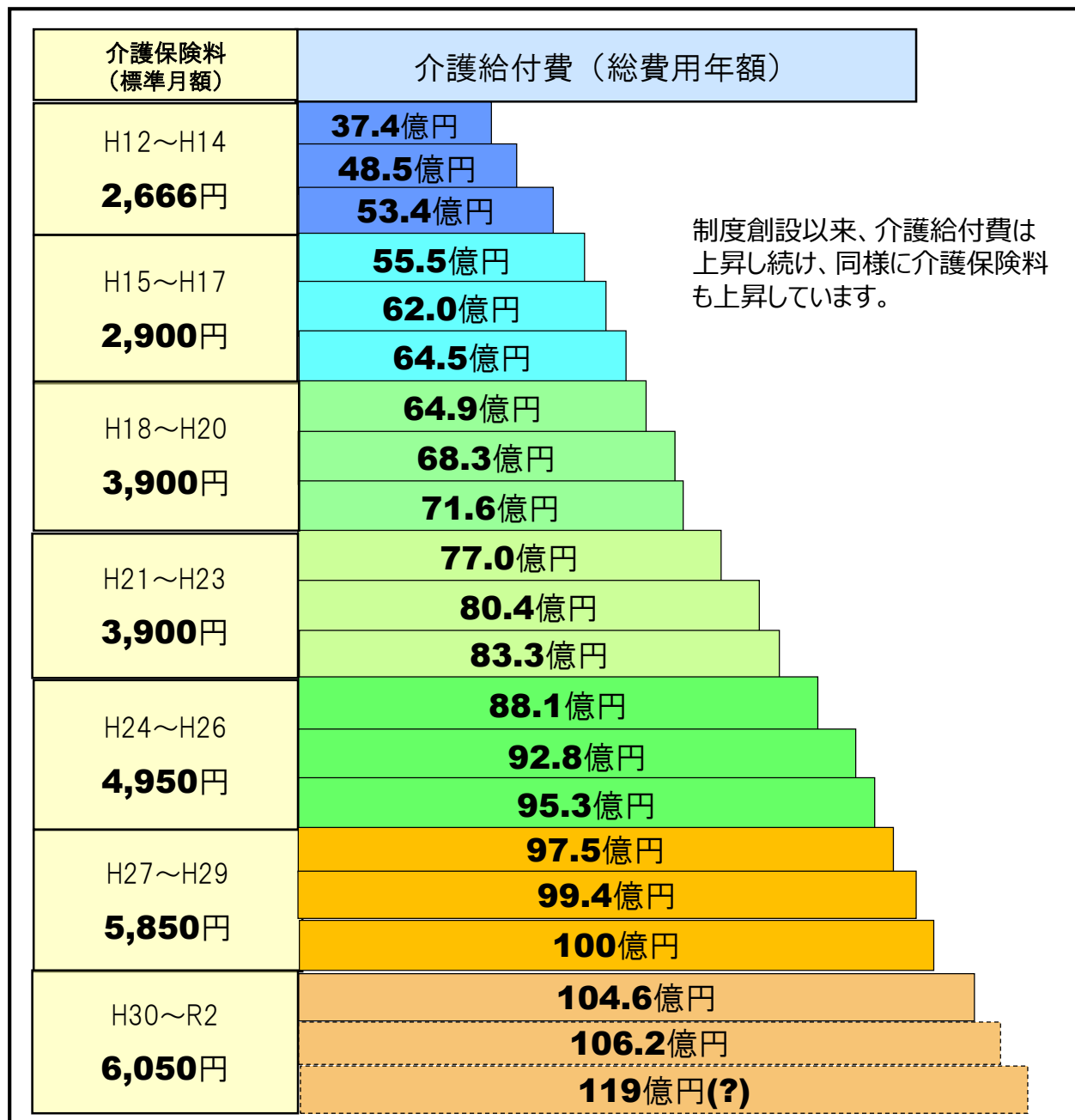
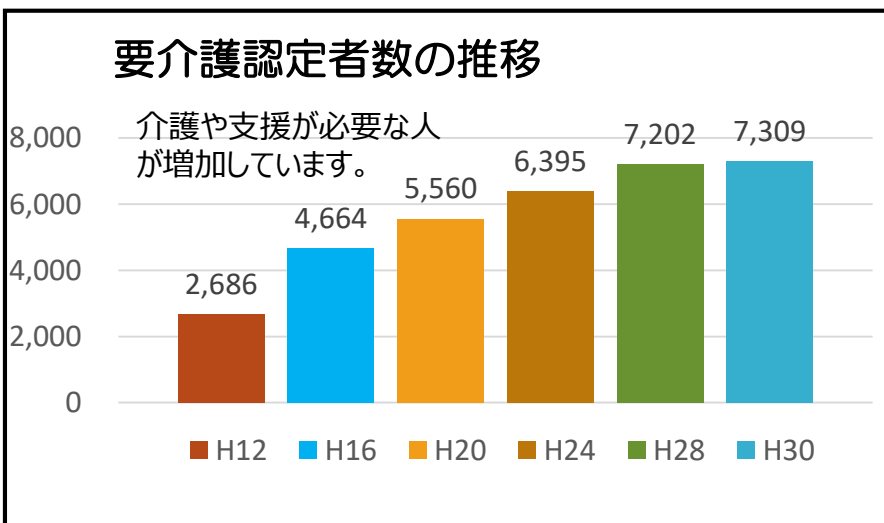
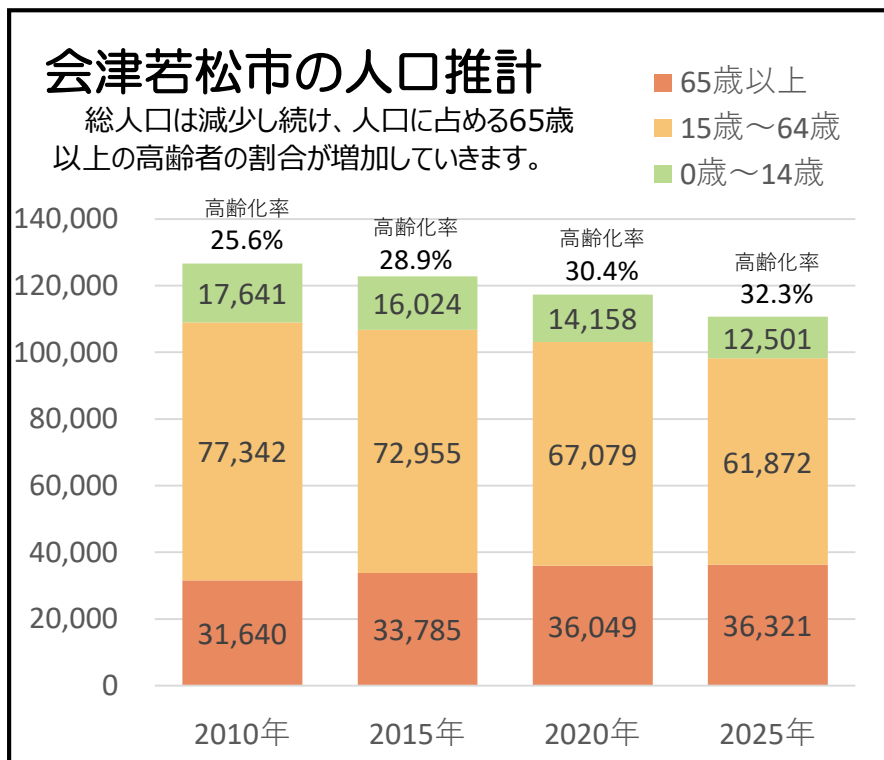


出生数の推移



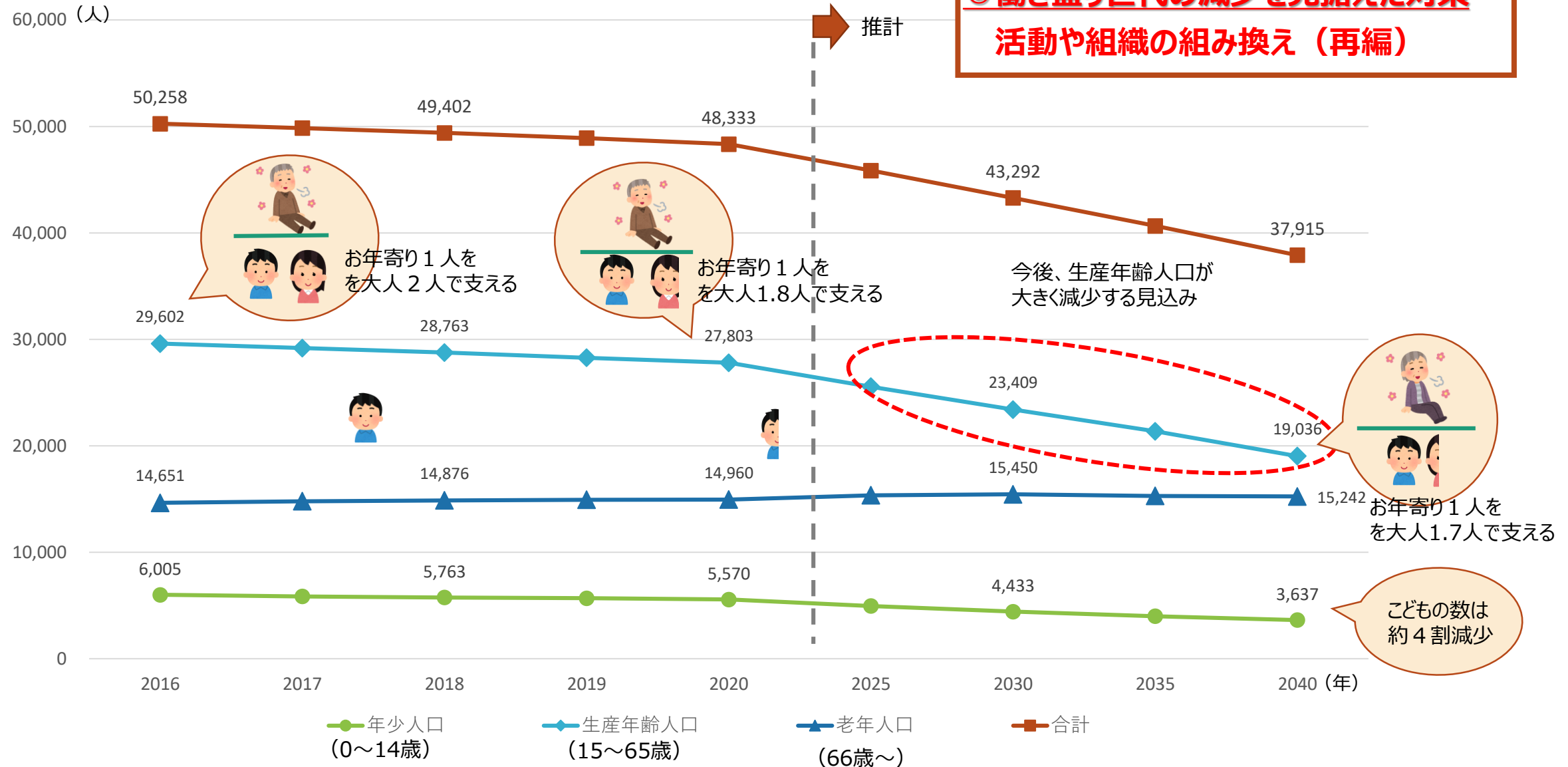
合計特殊出生率の推移

3 会津若松市の人口（高齢者の状況）



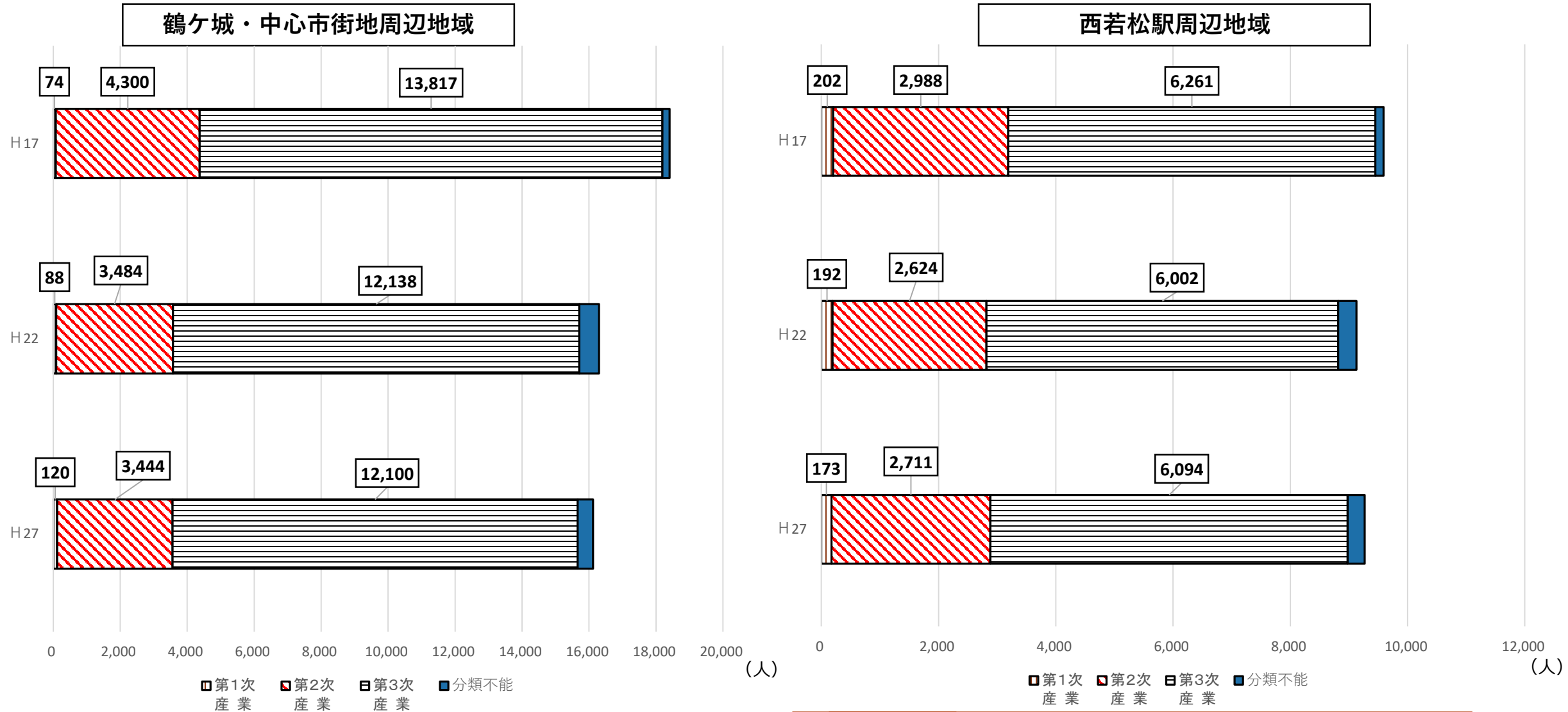
4 中央公民館エリアの人口（世代別人口推移）

◎ 働き盛り世代の減少を見据えた対策
活動や組織の組み換え（再編）



※各年の人口は1月1日時点の地区別1歳毎住基人口データから算出
 ※推計人口は「第2期会津若松市 まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の単純推計値より算出

5 中央公民館エリアの産業（産業分類別就業者数の推移）



◎ 第2次・3次産業が中心
流動性高い人材、新住民をいかに巻き込めるか

※データは国勢調査結果（産業別15歳以上就業者数）より作成

未来デザイン

ワークショップの成果

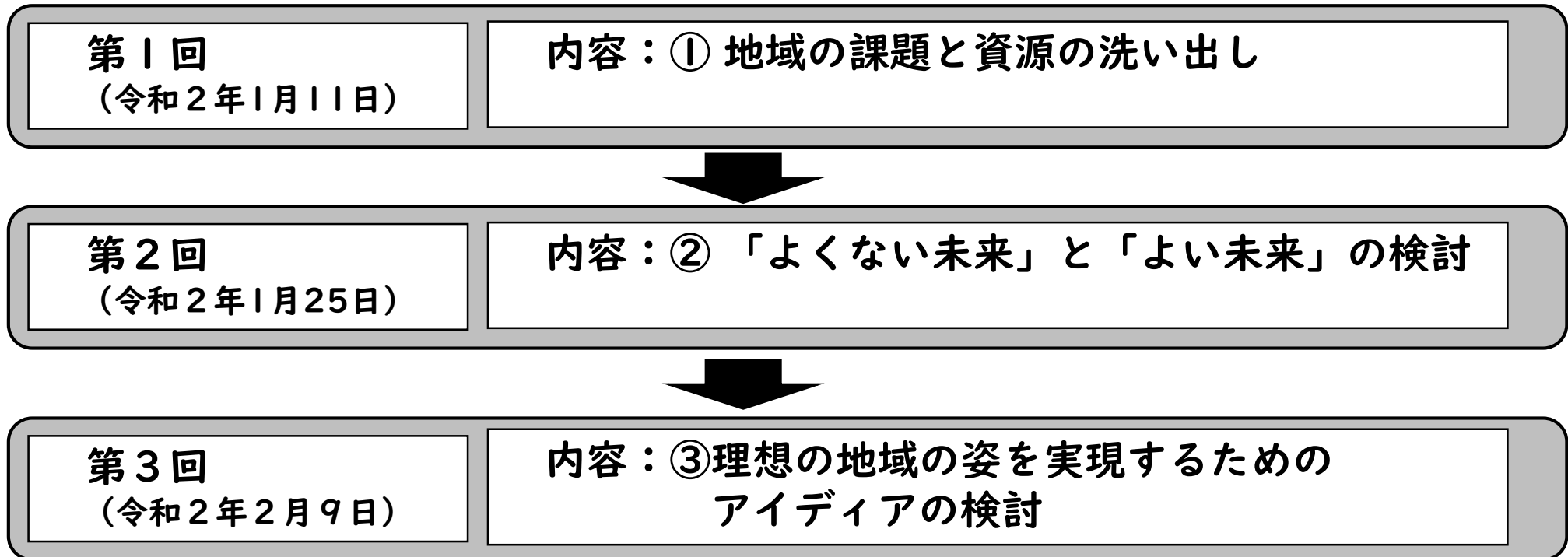
詳細は、別冊資料②

『未来デザインワークショップ成果報告【中央公民館エリア】』

をご覧ください

1. ワークショップの内容

- ワークショップでは、地域の施設活用の前提となる地域活動の現状と将来像を整理するため、全3回の検討を実施



2. ワークショップの成果

① 地域の課題と資源の洗い出し

【主な地域課題】

- ・ 少子高齢化
- ・ 近所づきあい、住民の交流機会の減少
- ・ 町内会役員等のなり手不足
- ・ 住民が集まる場所が少ない
- ・ 空き家、空き店舗の増加
- ・ 水害（湯川）、防災、除雪対策
- ・ 交通手段（特に高齢者）、道が狭い など

2. ワークショップの成果

① 地域の課題と資源の洗い出し

【主な地域資源】

- ・ 公共施設（稽古堂、コミセン、学校など）
- ・ 地域のお祭りや運動会、サロン活動など
- ・ スーパー、病院、飲食店など
- ・ 歴史、観光資源（鶴ヶ城、阿弥陀寺、石塚観音など）
- ・ 商店街（七日町、本町、神明通り、大町通りなど）
- ・ 公共交通
- ・ 比較的災害が少ない など

2. ワークショップの成果

② 「よくない未来」と「よい未来」

【よくない未来】（このまま何もしないとどうなるか）

- ・ 住民減少⇒空家の増加、若者・こどもの減少
- ・ 地域活動の衰退（なり手不足）
- ・ 店舗や仕事の減少
- ・ 公共交通の縮小
- ・ 道路などインフラ整備の遅れ など

2. ワークショップの成果

② 「よくない未来」と「よい未来」

【よい未来】（目指したい将来の地域の姿）

- ・ 学校を拠点に地域住民の活動や多世代交流が盛ん
- ・ 少子化を逆手に取り教育内容を充実
- ・ 予防医療定着により元気なお年寄りが増える
- ・ 空き家、空き店舗を集会の場などで活用
- ・ 地域の歴史資源を活用し観光誘客
- ・ 地域交通などを充実させ高齢者の移動を円滑に
- ・ Aictの企業と連携

など

2. ワークショップの成果

③ 理想の地域の姿を実現するためのアイデア

- ・ 空家の活用

⇒子ども・子育て世代の憩いの場、高齢者の体操の実施、
マッチングシステム作成、住民で実態調査 など

- ・ 学校の有効活用

⇒空き教室、空き時間を地域へ開放、機能集約 など

- ・ 企業等との連携

⇒商店街やAict企業、会津大学生と連携して課題解決
(イベント開催、地域の歴史発信、システム開発 など)

- ・ 地区組織の再編

⇒町内会組織のあり方の検討、他地区との連携 など

3. まとめ

◆ 新たな施設整備以上に、

* 既存の地域活動をいかに充実できるか

* 未利用の地域資源の活用

- ・ 公共施設の空き時間やスペース（コミセン、学校）
- ・ 空き家、空き店舗
- ・ 地域の史跡など

* 活動を継続できる仕組みづくり

- ・ 行政、企業、大学との連携
- ・ 組織のあり方、他地域との連携
- ・ 担い手の育成

⇒ 活動の洗い出しや今後のあり方をテーマに議論を深めたい